京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

抗州問題の落着

久しく我領事と支那官憲との間に交渉中なりし抗州城內日本商店破壊問題は此程當事者の滿足なる解決を見清國側は日本商人に對する損害を賠償することに同意したる由其筋へ情報ありたる由賠償金額の授受は勿論未だ行はれざるも近々圓滿なる結末を告ぐべしとぞ、元來抗州問題は右の商店破壊賠償案件の外に一層重大なる城內居住權問題ありて前者は地方にある彼我官憲の間にて交渉さるゝも後者は寧ろ伊集院公使と清國中央政府との折衝に待つべき別性質の問題なるが此方は却々容易には埒明くべくも非ず清國政府は十數年來外國臣民は居留地以外の地に居住する權利なしと主張し居るものにして獨り抗州城內の居住權を拒むのみならず各開市場に之れを適用せんとなし居れり左れば此の問題は獨り日本のみならず各國居留民共通の案件なれば我れに於てのみ之れが解決を急ぐべき性質のものに非ず故に抗州の清國官憲が立退料を支出して城內（居留地外に）居住せる邦人に立退を求むる場合には之れに應ずると否とは一に邦人の自由にして決して彼れより權利として立退を強制せらるべきに非ず即ち此の抗州城內居住權問題の方は先の家屋破壊賠償問題とは別個の案件にして假令後者の解決を見るも毫も之れが爲め居住問題まで落着するにあらず思ふに居住に關する清國の主張は却々容易に貫徹し難かるべしと云ふ

今後の暴徒豫想

暴徒の討伐を開始して以來茲に三ケ年を閲し漸く其の足跡を絶ち今や僅かに草賊の出沒を見るに至りたるも將來政治上、社會上著大なる變動あるは免れざるべく之れと同時に再び暴徒の蜂起を豫想せざるべからざるが今某官憲の談を聞くに銃器彈藥を供給する者あらざる限りは今後再び集團的蜂起を見るが如きこと絶對に之れなかるべし而して一種の暴動及草賊の出沒を見るは現時の如き少數の憲兵と丁數方里に一駐在所といふ薄弱なる警察力なるが故に之れを増加普及せざる限りは到底其の出沒を制止すること能はず尙韓國現在の暴徒を近時新政の爲發生したるものゝ如く考ふるものなきに非らざるも是れ一つの草賊に過ぎず凡そ何れの國を問はず草賊の横行は警察の普及せざる時代の産物として見ざるべからざるものにて之を韓國の古老に聞くに現時と十數年前とを比較するに火賊の出沒は當時に比し甚しく少なく其被害亦頗る減少せり云々

滿鐵の社債計畫

滿鐵の資金四千萬圓の社債を募集することゝ第廿六議會にても既に其協贊を經たるが差當り同會社にても其資金を急に要する譯にもあらざる上に政府は嚢に外債の借替につきて英佛兩國に新債を起し滿鐵社債の方は未だ閑却せられある姿なれども之れとて何れは外債を起す計畫にて四千萬圓を一回に行ふか又は二千萬圓宛二回に分つて行ふかは確定し居らざるも多分は一回に行ふこととなるべきかとは大藏當局者の語れる所也

●韓國とペスト系統

韓國には古來ペスト患者の發生したる事なし尤も一昨年北韓地方にて傳染病豫防につき視察の際虎列剌病患者にして鼠蹊線を切開し遂に死亡したるものあり病名は單に怪症とのみ稱し居たりしが虎列剌患者にして鼠蹊線を切開するが如き事萬々これなきを以て或は之れ眞正のペスト患者なりしやも知れず爾來該病に冒されたるもの一人もなき原因を尋ぬるに該病は世人も知る如く有菌鼠により病菌を媒介せらるゝものなるが有菌鼠は概ね古綿、襤褸、雜穀類等に接息するものにて神戶、兵庫、大阪の如き自然之等の陸揚げ頻繁なるを以て有菌鼠を發見すること極めて多く既に大阪の如きは非常なる多數を算しつゝあり幸にして韓國は▲鼠の接息すべき雜穀類は之れを國外に輸出するのみならず▲ペストの有菌鼠を多く有する大阪、神戶、兵庫等より韓國へ輸入するものは概ね織物、道具類なるを以て鼠の附着する憂れなく▲且つ內地と船路の往復は釜山にあつては關門を經過する爲め直接有菌鼠を輸入する憂なく▲仁川は遼遠の爲め棧橋へ横附けせざる爲め有菌鼠は概ね船体に止まる之等の諸多の理由によるべし

●日本人學校友會

去る三十一日島村京城控訴院判事の送別會を兼ね日本大學校友會春季大會を京城壽町食道樂に於て開催せしに會するもの二十餘名席定るや木尾幹事は幹事を代表して開會の辭を述べ續て岩本幹事の會務に關する報告あり支部長及び幹事の改選を爲せしに三宅判事を支部長に木尾、岩田、岩本、坂井、戸叶保坂氏を幹事に推選し酒間富田保坂氏の演說あり和氣藹々の裡に散會せしは午後十一時頃なりしと云ふ

●種痘成蹟と傳染病

種痘勵行の結果本年度は昨年度に比し痘瘡患者半減の好成績を見るを得たり左に四月中の種痘成蹟及び傳染病患者數を掲ぐべし

地名	痘瘡	ジフテリヤ	猩紅熱	チブス	赤痢
漢城府	一	一	一	五	二
京畿道	三九	…	…	…	…
忠南	一二七	…	…	一	…
忠北	三〇	…	…	一	…
全北	二六	二	…	一〇	一
平南	二	一	…	…	…
黃海	七	…	…	…	…
全南	…	…	…	一七	…
咸南	二八	…	…	四	…
江原	…	…	三	…	…
慶南	一〇七	一三	…	一一	…
慶北	…	…	…	一六	一一
計	三六七	一七	四	六五	一四

然して一月よりの累計は左の如し

痘瘡	ジフテリヤ	猩紅熱	チブス	赤痢
一、七一〇	四〇	三三	二三三	一五

計　二、〇三一

日本銘刀傳

津田近江之守（卅三）

第百廿八席　邑井一講演

泉岳寺に於て四十七人は亡き殿様にれ別れを申し愈々其晩仇討をしやうと云ふので一同一人〳〵に本所林町の蕎麥屋へ集合して勢揃ひをなし愈討入をしやうと云ふことになつた、兎に角吉良の屋敷の様子を探らうと云ふので岡島彌惣右衛門、原總右衛門、武林唯七の三人に內藏之助が探偵をして來いと云ふ命令を下した、そこで一刻も早く探偵しやうと云ふので岡島、原、竹林の三人吉良様の屋敷の周りを彷徨いて見るといふと道甚麼に吉良様ではれ茶の御納會、夫れから御酒宴さ見台で飲めや歌への大騷ぎ、れ屋敷の周りは寒さも厭はず龍籠を取卷いて供の者が提灯を持つて控へて居る、此有様を見て三人は落膽して立歸り此事を話すと內藏之助も落膽して 內『アヽ困つたことゝ今夜に限る折入り今夜が過ぐれば明晩は十五日、最う十七日は淺草觀音の年の市で此處等邊りは夜通し人通りがある、又明日にもせよ蕎麥屋に斯ういふ者が集つて、是れ〳〵したといふことが自然と風聞になれば、又上杉の方から附人が加はるやうになる、是りやア困つたものである』と大石が飲む酒も苦くなる、すると其の夜の四ツ時分、吉良様の屋敷にて何々と高家衆の名前を呼立て、追々と御家來が龍籠を取卷いて歸りになる、以前の騷ぎに引返へて吉良様の屋敷は、寂として寢靜まる其處で四ツ少し前といふ頃ひ再び蕎麥屋の二階から出て往たのが千馬三郎兵衛與田貞右衛門吉良殿の屋敷の様子を探りに來ると、今れ客が歸つたといふ跡で、パタ〳〵雨戸を立て今に寢やうといふ様子、兩人喜んで蕎麥屋の二階へ歸つて大石其外一同に向ひ 兩人『れ客は只今れ歸りになり、雨戸を締めて最早寢靜らんとする所、今打入れば寢鳥を刺すも同様でござる』內藏之助天を押して勇立ち 內『各々方御支度に掛られよ』と長持の蓋押開きて銘々夫れへ取出した白黑段々筋の陣羽織法性流のしころ頭巾伊呂波假名の合印……其處で半弓方は向ふの柱にウーン〳〵と弓を押當て弦を掛ける、或はがんどう提灯に乎顔の蠟燭を點ける、其他かけや繩梯子補々の道具を夫れへ取出す、此方の下では蕎麥屋久兵衛コクリ〳〵居眠りをして居たが 久『婆さん二階の御客は長へぢやないか四ツまでといふ約束だつたのだに、四つは先刻打つて仕舞つた、何にをしてゐるだらう、奉公人も眠むからうが勘辨して呉れ歸つて呉んなさいと催促をする譯にもいかねゝ何にをして居るんだらうと、話して居る中に二階がミシ〳〵と音がするから何れ客人が生酔になつて相撲取でも始めたんだなと思つて居ると、上では最早充分支度を整ひサア宜しいといふ時に、二階の壁に古くなつて小兒の手習をした紙に『何んの其』と書いて其下が白紙になつて居るのを大高源吾が見て矢立を取出し其下に以て往つて『岩も通す桑の弓』と跡をつけて、サア押してといふ折りしも入江町の四分早の四つの鐘、吉良の屋敷へ討入るは最屆覺時刻と、戸を明け表へ立出ずれば、時は元祿十四年十一月十四日の夜、一天澄渡たり、中天に懸る月は、恰も銀盤を磨ぎたるが如く、地上に積る白雪は、皚々として白氈を敷きたらんが如くなり、是れより人數を二手になし、表門には廿三人、大石內藏之助良雄之れを統べ、裏門には十三人、大石主税良兼是れを率ひ、山と呼べば河と應ふ符牒、手筈悉く整ひ、是れより愈々討入りと相成りまする、岡島彌總右衛門例の近江守助直の名刀を揮つて大に働らきまする御話

東京電報

●統中學生の資格

本日文部省告示を以て左の如く發表さる　統監府立中學校生徒及卒業者は他校への入學轉學に就き中學校令により設立したる府縣立中學生及卒業生と同等と認むる事を告示す（一日）

●各國大使滿韓視察

東京駐剳英米兩國大使は近日出發滿州、韓國視察の途に就かるべし獨逸大使も之に次ぐ各國使臣の滿韓視察は何等か重要の用向存するものなるべしと推測せられ朝野政客の注目を惹けり（同上）

●駐剳軍倉庫長任命

陸軍二等主計正河合葉蔵氏は韓國駐剳軍倉庫長に補せらる（同上）

●豫算編成の變更

歳入歳出豫算編成の形式を變更し款項目を減少すると共に項の流用を許す事となり現在の經常費約一割乃至一割五分を減少し得べしとの議あり目下研究中なり（同上）

●新式の宮廷列車

鐵道院にては宮廷に完備せる新式宮廷列車を設くる事に決し本年秋季陸軍大演習御統監の爲め岡山縣下へ行幸あらせらるゝ迄に落成せしむべし（二日）

●南清不穩と遣艦

長沙地方一帶は今尚ほ不穩の形勢あり何時大暴動を惹起するやも難計に就き警備の爲め寺垣第三艦隊司令官は旗艦を明石に移し本日九江發漢口に向ひ又た須磨は來る九日佐世保發南京方面に急行す（同上）

●河口事務官の渡韓

大分縣內務部長事務官河口彦治氏は韓國へ出張を命ぜらる（同上）

●統監秘書官の任命

統監秘書官任命せらる　大城戸宗重（高等官三等）（同上）

●東三省の借款決定

錫東三省總督は財政整理の爲め我橫濱正金銀行より百五十萬兩を借入るゝことに決定せり（同上）

昨年度の營林廠

明治四十二年度に於ける營林廠の事業は製材事業を主として兵營幷に韓國建築用材を供給し傍ら一般官民の需用に應じ京城、仁川其他各地に派出所を設置して一般需用者に供給し漸次販路を擴張しつゝあり該業務は鴨綠江流域に於て七十尺締此柱八千五十五本小丸太七千九百四十三本にして豆滿江流域は或る碍害の爲め豫定流筏數（丸角六萬尺締）に達する能はずして僅かに三百三千二十六尺締を着筏せしに過ぎざりしと▲漂流木の整理に就ては毎年上流各地に於ける淸韓人紛爭の原因となり韓人は常に淸人に壓せられ殆んど淸國官民の掠奪に委せし狀態なりしを以て營林廠は昨年三月鴨綠江の採木公司と協定したるところありしも同公司は淸國側に實施すること能はず淸國木把は營林廠の勵行に依り屢々暴行を爲したりと雖も憲兵等の警戒にて整理規則を遂行し韓國側漂流木材六萬二百二十一連及七千三十本を拾集し得たりと尙ほ純益金は七万五千三百七十八圓にして日韓兩國政府の分配するものとす

水原地方の不穩

財務監督局員高井有親外二名は去る二十八日より水原守備隊より兵卒二名の援助の下に京畿道龍仁郡蓬賢面蒲釜長地方の國有地測量調査中三十一日に至り同地人民數十名集合し彼等は作業員に主張するに該地は從來民有地なるに拘らず今回新たに國有地として調査するは不當不法なりとて頑强に對抗し監督局員及援助として出張中の兵卒も懇諭するも頑として應ぜず爲めに作業を中止せりと何時もながら苦々しき事にあらずや因に水原憲兵隊にては都合上守備隊として援助の任に當らしめたるも該報に接し急遽部員を派し之れを解散せしめ昨今調査に着手し居れりと

土地調査と訓令

度支部大臣は土地調査開始に就き各道觀察使に對し左の意味の訓令を發せり

本年三月勅令第二十三號土地調査局官制發布に就き不日該局員實地に出張して土地の測量及調査に着手するを以て左記事項及其の他該局員執務上に關し一般便宜を與ふべく豫め管下各府郡に通牒すべし尙ほ其の時日及場所等詳細の事項に至りては土地調査局總裁より隨時知照すべし

一、標杭、標石、覘標、測旗を建設する事

二、測量に障碍ある竹木は已むを得ざる場合に限り採伐す

板垣伯の渡韓說

曩に御下賜金を辱ふせる板垣老伯は彌々聖恩の優渥なるに感激し老後の勇氣を振ひて報効の大義を盡すべく六月上旬を以て韓國視察の途に上り各道を遊說して大に人心の收攬を圖る可しと

●政友進步の合同說

統監の更迭は痛く韓國各政黨の神經を刺戟したるものゝ如く其幹部等は種々の夢想を描きて孜りに畫策を凝らしつゝあり就中彼の政友會は創立後黨勢酷だ振はず總裁金宗漢の如きは既に悄氣を催ふし數日來本部に顏出しもせず辭任の決心牢として拔くべからざるものあり茲に於て同會唯一の策士高義駿は如何にもして之を引留め頹勢の支持に努めんと腐心せる結果茲に一策を案じ進步黨との合同を企て此大勢力を以て內閣を改造し金宗漢を總理に推戴すべく潛かに同黨に當りて試みたるに彼も亦財政窮乏して事多く希望と副はず頗る否運の狀態に在るより二つ返辭にて之に應じたれば高義駿は直ちに此旨金宗漢に通じ其同意を求めあり此計劃は勃々たる金宗漢の野心を動かし善は急ぐに如かず殊に統監の交迭は吾党の最も乘ずべき好機會なり且つ日韓の關係は近く開展を見るべき事火を見るよりも明かなる今日一日も之を緩ふすべからず故に機に投じ勢を制し以て一進會の裏をかき最後の光榮に浴すべしと議一決し高義駿として急遽渡日せしむる事とはなれり是亦統監交迭の一反響なるべく而して天眞爛縵たる韓政黨の籌謀例によりて愛嬌を極むと謂ふ可し

●淸國葉錢の密輸入

全羅北道は一般に葉錢の流通盛にして葉錢を所持せざれば市場等にて自由に買物を爲すこと能はざる地方すら尠なからず然るに昨年以來貨幣整理の結果漸次葉錢の引揚げられ小取引を爲す小商人等は只管不自由を感じつゝある折柄近頃淸國の葉錢を流通する者あり殊に泰仁邑內の市場に於ては此類の葉錢を見ること多き由にて韓國の葉錢は紙幣一圓に對し五百文が普通の聲價なるも時としては四百八十文內外にあらざれば交換せざることあるに反し淸國葉錢は紙幣一圓に對し一千文の交換を爲し結局韓國葉錢の倍數に交換せられ之れを同樣に使用し得るを以て狡猾なる淸國商人等が密輸入をなすものなりと

●露領事館新設準備

露國政府が城津に領事館を新設す可き由は既に報道せしが右に關し當地總領事に對し開設準備に着手すべき旨本國政府より命令あり之が爲めに該地狀況視察の爲め同領事館滯任中のニコライ借正は歸化韓人にして通譯なる姜漢澤を伴ひ六月十日出發すべしと尙ほ同地方には日露戰役の際戰死又は病沒せる軍人の埋葬せるもの尠なからざれば同借正は親しく調査を遂げ之を本國へ報告して厚く弔祭の禮を執行すべしと云

●新任秘書官の概歷

別項東電は統監秘書官として大城戸宗重氏高等官三等に任命されたるを報せるが氏は府縣官制改革以前栃木縣參事官たりしが山縣副統監德島縣に知事たりし時其下に轉じ又次で山縣氏內部次官に昇任するや東京府參事官となり此前後より山縣氏に知られたり氏は年齡五十五六にして高等文官の資格なきも老練なる純吏として令名ありしが官制改革と共に仕途を失ひ目下閑地に悠遊せる人なりと云ふ

●農商工部の俱樂部

農商工部內役員間に娛樂機關として俱樂部を設立する計畫あることは既報の如くなるが愈々今回役員協議の上各自俸給の百分五乃至百分十五を醵金し目下建築中の特許局隣りの永禧殿內に新築するに決し不日着手する筈なれば今月末か來月初旬には竣工すべく娛樂機關としては雜誌、弓、碁、將棋、テニスコート玉突等の設備をなす由

●警備船と平北沿岸

目下漁期に際し淸國密漁船の來漁するもの頗る多く殊に淸國政府は不法にも軍艦二隻を派遣せりとの說傳へらるゝより警務局は南韓警備中の警備船二隻を該海面に急派したり而して同船には特に今井警部を乘組ましめ漁場の監督及警備を司掌せしめ其一隻は鴨綠江を遡流し木把に關する警備をも管掌せしむべしと云ふ

●雜誌發賣頒布禁止

桑港在留の韓人の經營に係る新韓民報と題する第百八十二號雜誌は治安妨害の科を以て其の發賣頒布を禁止し且つ其の差押を命ぜられ浦鹽斯德港に治[illegible]妨害の件にて發賣頒布の禁止し且つ其の發行の停止を命ぜらる

●郡主事任地競爭

新任の郡主事の可成繁華なる土地に赴任せん事を希望し忌はしき任地競爭を始め頗る激烈にして醜を極め種々なる運動等を持參するあり甚しきは物品を陰に上官へ持參するあり去れど內部當局は是等の運動を絕對に卻け公平に任地を決め居れりと

● 社告

病統監曾禰子爵遂に掛冠して寺內陸相之れに更り山縣前遞相は新に副統監に親任せられ永く沈睡せし統監政治は茲に面目を一新し世上の景氣は將に活氣を帶びんとす、されば本社は兩統監更迭を紀念する爲め左の通り一大紀念號を發刊せんとす

統監更迭紀念號

▲紀念號發行日　來る六月廿五日

▲記事の內容　韓半島に關する名士の談論其他政治、經濟、人情、風俗、美文、短篇等最も趣味と實益に富める記事を網羅す

▲頁數と發行部數　約數十頁となし發行部數も平素に數倍し廣く江湖に配附せんとす

右の次第なれば當日の廣告は普通廣告に比し數倍の價値あるを信ず

尤も廣告締切り期日は六月二十日を限りとす

六月　京城新報社

●早大校友會開催

在京城早稻田大學校友は來る四日午後二時より龍山八景園に於て校友保安課長玄角仲顯氏の歡迎を兼ね懇親會を開く由出席希望者は京城理事兼務內長野氏へ申込べしと

●漢城病院舟遊會

明治町漢城病院は昨年民團の手を離れ現院長安藤氏の經營に移りて茲に一週年を迎へたるを以て自祝の意を表する爲め來る五日漢江に於て盛んなる舟遊會を催ふすと

●仁川の大淸潔法

仁川の韓人部落に對する大淸潔法勵行は先月末日を以て結了せしを以て更らに市內に於ける下水溝の浚渫に着手したりと云ふ

●渡邊檢事送別會

仁川區裁判所より新義州區裁判所に榮轉すべき渡邊檢事の送別會を市民有志の發起にて四日午後七時より入坂樓に於て開催する筈

●桐原署長の出發

曾禰前統監護衛の任を命ぜられ東上中の南部警察署長桐原警視は四日出發歸任すべしと云ふ

●新任助役の着任

新任の仁川民團助役樋口志五郎氏は一日夜着任せりと

寺內統監の官邸

山縣副統監渡韓の上は從來の統監官邸に住し寺內統監官邸には龍山の新築官邸を當てらるべしと云ふ

曾禰統監在職日數

今回特に前官の禮遇を賜ひて本官を免ぜられたる曾禰前統監が昨年六月十四日故伊藤公爵の後を襲ふて統監の印綬を帶びてより以來辭任に至るまでの在職日數は三百六十一日にして滿一ケ年に足らざる事僅かに五日なるが本年一月三日東上したるを以て其の日數百四十七日を差引く時は直接政務に鞅掌せしこと二百十四日なりと

大韓醫院の改革

官界の風潮以外に特立したる大韓醫院も博士菊池常三郎氏就任以來兎角內部の闘爭絕へず互に黨同異伐を行ひ其影響も洵に憂ふべきものありしが爲めに曩に曾禰前統監の後を追ふて東上し目下滯京中なる菊池院長は高階副院長の辭職せざる機會に一切の情弊を打破し院務の刷新を斷行せんと欲し潛かに後任副院長以下の物色及其他の計劃を凝らし居れるも偶々統監交迭の爲め悉く豫期と齟齬し更に計劃を新にするの必要起り院長も殆んど當惑の體なり然れば改善の必要は院長夫れ自身の引退已むを得ざるに到りしなりと

仁川取引所活く

久しく休業中なりし仁川取引所は先頃來再び營業を開始したるが昨今は中々の好景氣にて穀類の取引多大に行はれつゝありとの事なり

赤十字病院計畫

赤十字韓國總支部會員中の重なる人々等は時勢の必要に鑑み先頭中より赤十字病院設立の計畫を爲し目下右に付寄々協議中の由なるが若し實現せらるゝことゝもならば必ずや一般の歡迎を受くることとなるべし

●駐剳軍ご受負資格

駐剳軍經理部に於ては工事請負人の資格を大要左の通り改定さるゝこととなりたり

一、二ケ年以上營業に從事せる者

一、內地に於ては五十圓以上、韓國に於ては百圓以上直接國稅を二ケ年以上引續き上納せる者

一、一口一萬圓以上の工事を三回以上請負ひ竣成したる經歷を有する者

一、刑法上の處罰を受けたると無き者

一、本籍者は居留地に於て租稅金の滯納無き者

以上の資格を有する者にして經理部員四名以上にて詮衡し一名も異議無き者を選定し經理部長之れを決定する由なるが尙左の二項を留約するを要すと

「、請負たる工事を第三者に下請せしめざる事

一、工事請負金に對して債權讓渡を爲さゞる事

尙經理部員中臨檢係なるものを設け不斷工事を臨檢せしむべしと

●商會議員競爭開始

來る三十日を以て執行せられんとする京城商業會議所議員の半數改選には少壯者間に候補者たらんとする者尠からず過般組織せられたる卸商組合、金物組合又は今回組織せんとする土木請負業者組合の如き皆之れ野心家が今回の選擧に利用せんとするに外ならずと云ふ者ありそは姑く措き昨今既に運動に着手して委托狀の蒐集を始めたる者四五名ありと

●會議所議員選擧權

京城商業會議所の選擧人名簿は一日を以て調製せられたるが選擧人總數は七百十四人なるも此中課金未納者約二百名あり期日內に納附せざれば選擧權及び被選擧權を停止せらるる次第なれば今日の所未だ確たる數を定め難しと

●土木請負組合組織

京龍在住の土木請負業者四十餘名は同業者の弊風を矯め親睦を圖る目的を以て同業者組合を組織すべく二日午後一時より商業會議所樓上に於て相談會を催すと云ふ

●英陸軍將校の歡迎

英國陸軍大尉ハミルトン氏滿韓視察の爲め去三十一日入京一日統監府を訪ひ二日軍司令部に至り岡本參謀等と同行師團司令部を訪ひ夫れより各兵營を巡覽せしが今朝滿洲に向け出發せし筈

●仁川商業學校增築

仁川民團立商業學校は其後俄に入學者を增加し今や八十三名を數ふるに至りしが何分現在校舍は不完全なるのみならず狹隘を感ずるを以て近く校舍を增築せらるべしとなり

●南大門外道路確定

南大門外道路は南側と北側の競爭となり今日まで行惱みの姿なりしが愈々南側と決定二日より土地收容の交涉を開始したれば遠らず着手の運びに至らん

●商會議所臨時總會

京城商業會議所にては來る三十日の議員半數改選に於ける選擧權、被選擧權の停止に關する件を議する爲め四日午後七時より臨時總會を開くに決定せり

●松永師團長の檢閱

松永第二師團長は隨時檢閱の爲め吉田參謀を隨へ二日午前九時七分龍山出發水原に向はれしが同夜は同地に一泊し三日成歡に一泊四日歸任の豫定なりと

●朴內部大臣の招宴

朴總理大臣署理及び李視衛府長官は來る四日大久保軍司令官石塚長官松永師團長其他各大臣等を漢城俱樂部に招待し盛大なる宴會を催す由なり

●仁川港出入の船舶

仁川に於ける去一日の入港船は溫州日高の二隻（上陸男一〇一女九）にして出港船は溫州（乘男八女四）二隻なりしと

●佐々木部長の東上

土地調査局調査部長佐々木藤太郎氏は東京、大阪、京都及び廣島へ出張を命ぜられ來る五日頃當地出發すべしと

●宇佐川總裁の歸京

東上中なりし東拓總裁宇佐川一正氏は嶺秘書役長を隨へ去る一日歸京したり

●明石參謀長の歸任

東上中なる明石駐剳軍參謀長は本月十日頃東京出發歸任の豫定なる由

●英國總領事の出張

京城駐在英國總領事ボーナー氏は三日出發鎭南浦、平壤、雲山金鑛へ出張す

●俵學部次官の出張

俵學部次官は還立平壤日語學校開校式臨席の爲め澁谷事務官を隨へ三日同地出張

●澤田局長急遽東上

澤田地方局長は郡主事屈聘に關する用務と稱し一日朝南大門發急遽東上せり

●朝鮮「六月號」出づ

先づ卷頭數葉の寫眞版を入れ、主張欄には統監の交迭、統監局面の轉回如何、時事片々等何れも旭邦氏一流の筆法は一讀痛快を覺ゆ、論說にては三宅博士の移民地としての滿韓を初めとし多數名士の意見を網羅し其他研究、富源、訪問錄、雜纂等記事頗る豐富なり尙ほ同誌は近來文藝欄を擴張し本誌の如きも見るべき者頗る多し定價一部廿五錢同社並に本町二丁目日韓書房發賣

●村田中尉の歸京

去月廿二日咸興地方巡視の爲め出張中なる京城分隊附の村田憲兵中尉は三日歸京する由なり

●澤田書記官入京

黃海道書記官澤田乙三氏は一日入京不知火旅館へ投宿

●伊藤中尉の出發

陸軍憲兵中尉伊藤顯消氏は去る一日出發釜山へ向へり

●淺見忠次氏出張

內部技師の同氏は去る一日出發釜山方面へ出張したり

●倉長恕氏の入京

中外通信社長の同氏は去る一日入京京城ホテルに投宿

▲治外法權▼

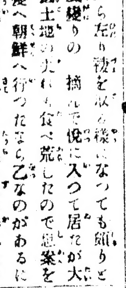
文治の曾禰が退いて武斷の寺內が出たから愈々日韓關係最後の解決をやるだらうと騷ぎ出した連中が幾らもある、成程合邦とか合併とか昨紙にも言つた通り經濟的施設の準備としてなら一日も早くヤツヲ貰ひたいものだ、併し之が日韓關係最後の解決だなどと云ふなら餘りに考へが單純すぎる▲由來日韓の關係は合邦や合併で最後の解決が附くほど單純なものではない、アン子キセイションはヂアパニセイションの前提に過ぎぬ▲先立て來遊した獨逸大使ムンム男は外交上より見て今日の半島は日本の勵圖だと言つたソウだ、ソウして自分が來遊したのは在東京獨逸大使館の管轄區見物の爲であると言つたソウだ▲前大藏大臣阪谷博士は本邦鐵道に廣軌式採用を熱心に主張して居られる、之が現實になつたら運輸界に大革命が起ることであらう▲京元湖南の兩鐵道が十年後でなければ開通しないとは待遠な話だ臺灣やフキリピンの例に倣ひ本線は本線として別に輕便鐵道を敷設し、トロを動かしては、ドウカ、官民は此問題に付是非一考すべしだ▲曾禰の侍醫となつて得々たりし大韓醫院長菊池は其解間的動作及曠職の廉から最近に於て醫博士會から彈劾された、若しも今にして彼が潔く現職を辭さなかつたら博士會は彼を除名するとの事だ。



名妓洗髪のれ妻(四)

▽ツイ解いて除た帯の端
▽煙草屋から米屋に早替

花の家の女將さんは古賀さんを知つて何事も胸に疊たんで人に知らさなかつたのか、藝者末社と共に異に知らなかつたかは、今に疑問であるが、其んな此んなでれ妻も三十路を越した身の、髷の美しさには惚れずとも、其遊び振りには少からず頼母しく思ひ染めては、ツイ解いて除けた帯の端赤條々となりては何んの事はない大臣參服は愚かの事、只の遊人高が螺売町でのドカ儲けをしての遊びと知れても解いた心の紐の、結ぶに難い破目となつたので、ツイ古賀吉に引かされて、れ妻が自ら語つたやうに、卅二年の暮に銀座二丁目に粉御烟草屋を初めてお妻は三味線れ銚子を持つた手で、烟草の小賣を初めたが此煙草屋が資金の一万圓といふものは、當時れ妻が妹小奴が丸八の息子松澤一郎に引かされてゐたのを縁に、一郎の手から供されたさうだ、堅氣な商人の息子ではあるが、「本町さん(一郎)は遊人が好きだ〳〵」とは、花柳界の誰彼の傳ふる處であつたが、間も無く銀座の店は仕舞て、兩人は月島に白米屋を出した其時れ妻は身には鯉口を甘をり五十人からの米搗を指揮して其洗髪も糠に塗れて白くなつて働いてゐたが、一年程で白米屋も廢して了ひ有樂町に仕舞屋で暮てゐる中、古賀吉は甲子樓の入婿となつたのを機會に、れ妻は千圓の手切を出して古賀吉と綺麗サッパリと切つて了つた▲れ妻古賀吉と男女を並べると、新作淨瑠璃の角書にでもありさうである、且つ今までれ妻は、其話しの中にもあつたやう稼業を引いては出、出ては引いたが、米倉一平との中洲住居のやうれ妻は只のれ妻、園ひ者といふに過ぎず思ふた男と苦勢を共にするといふやうな世話場は、只の一度も無かつた、古賀吉と同棲するに至つて、初めて煙草屋となり、白米屋となつて稼業大事に堅氣に働いた、一は名ある遊人、一つは洗髪のれ妻と歌はれた女其同棲二年の月日の中には、語るに語り榮のする情事もあらうかと思はれるが、其んな事は無かつたといふも、古賀吉其人の爲八から來るのだ、此間の消息に就ては一話善く古賀吉が面目を現はしてゐることがある



京城樓 花子の當て事

▽外れなければ結構だが

新町遊廓京城樓の花子と云ふは静岡縣庵原郡富士川町大字岩淵生れ本名は齋藤しつ(二二)が此の世を忍ぶ假りの名とこそ知られても別段驚く人も困る人もないからとてれ氣の毒でも何んでもない此の妓四十一年も押し詰つたる十二月二十八日親父が新年の餅代に手間へたるより自ら進んで身を賣つて其の急場を救つた程の孝行者とて娼賣にも精を出す面も可なり踏める所より相當に客足を引いて居る中客にしたのが本町一丁目の明法學士增本君で初めの間は格別の事はなかつた然るに何が幸ひになるか判らぬもので增本君の妻君が死亡れてからと云ふもの初七日も経ぬのに毎夜花子の許へ通ひ詰め君し自分の行かない晩でも他の客を取つたことを知ると大チン〳〵玉代は俺が拂つてを行る今引受けてる事件が片付次第身受けして女房にする韓國銀行が質物に出れば買はうと云勢ひなんだからと巣鴨病院で葦原將軍が今頃恰度見て居そうな夢の如な大風呂敷をスッポリ押つ冠せられた以來と云ふもの花子の氣燄は大したもので病氣と稱して他の客を取らず國師室の屋根にとまつた鳶の如にグット世界を下目に見て居ると云ふが其の增本君は目下或る事件に關聯して青息吐息五色の息を吹き分けて居ると聞いたらエット驚くべければ當分は秘密にして置いて遣つたがよし

藝妓若駒の片戀

▽烏丸伯爵閉口の事

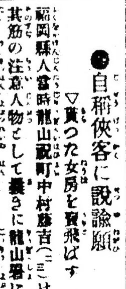
當地花月樓の抱ゑ藝妓に若駒と云ふ誠に無邪氣で愛らしい女の子ありハテサ藝妓と云つても女と斗りは限らんから理窟屋の八兵衛さんに文句を云はれぬ豫防線に判然と分る樣に斷つた譯なりれ母さん或る日の事れ父つあんが晩酌の肴に蒲鉾を付けるので其のツマに裏の畑で蓼を摘んで居た所機會と云ふものは恐ろしいもので蓼の虫が鼻の穴へ飛び込んだハッさ思ふ途端目が覺めて見ると夫れは夢で夫れから身重になつて生み落したのが此の若駒因果の道理は爭はれぬもので成長するに伴れ一風變つた者を好み世間並では納まらず伊豫の宇和島で一流の料亭味酒屋の娘なりとか

から左り褄を取る樣になつても頗りと風變りの摘んで見るに入つて居たが大抵土地の男は食ひ荒したので思案を變へ朝鮮へ行つたなら乙なのがあるに相違なしと扨こそ當地へ住み替へたのなりとか、さても其の後然る程に若駒は當地に著いた當日は何分船や汽車の疲れもあるので休んだが翌る日からはモウ兩眼を丹波酸漿の如に剝き出しれ髯の方はないかと戸籍調査の查公の形で捜し回つてる眼へイヤと云ふ程打つかつたのが、元ソウルプレスの頭の殿の顎髯、天神樣が色氣付いて白いの丈け拔きになつたかと思はれる格恰にズント打ち込みアレアレアレが宜いと夢中に成り嬉しい首尾を結んだのも暫時の間懲しい殿は都合あつて外國へ行つて終はれたが其の髯の工合が身に染み〳〵と片時忘れられずモウ彼んなのは無いことゝ諦めて居た所棄てる神あれば助ける神で烏丸伯爵の夫れが間の抜けた采配から竹籔へ牛を追ひ込んだ風にイヤにガサ〳〵してる所迄似たとは愚か瓜二つなるにぞ世の中は然う悲觀したもんでもないワと漢語を遣つて喜んで見たもの〳〵只見た斗りぢやあ三越の前へ立つてる如で何うも物足らない似た序に似た樣な交情に成つて頂戴なと跡け回して口説立てゐるに伯爵初めの間は宜い加減に誤魔化して居たが此の頭の猛烈なる口説振りには頗る閉口の態なりとか

店員評判記(四)

日韓書房店員 遠藤二輔君

二輔君は日韓書房の帳簿係りで眉目清秀の好男子である、東京府下北多摩郡立川の產で玉川の水に晒し上げた膚は奇麗なものだ、三十八年十七歳で東京神田の同文館に入つたので三十九年八月店主森山君が日韓書房を經營することになつたので、森山君の令兄即ち館主からの命令で轉勤したのだと、何にせよ未だ二十二歳と云ふ若さであるから云はゞ前途は遼遠である、努力奮勵を要するのは此れからである、小成に安んずることなからんことを切望する、現時の同店として同文館や博文館や富山房やの如にする責任の一部は君等が負はねばならんのだ、怜悧なる君は夙に之れは承知のことであらふ、嗜好は讀書と音樂である。



●自稱俠客に說諭願

▽貰つた女房を賣飛ばす

福岡縣人當時龍山元町中村藤吉(三〇)は其筋の注意人物として曩きに龍山署に於て警察犯處罰令違犯として拘留處分を受けし白物なるが去る頃酒井はつの長女かめのが明治四十一年三月頃龍山凱旋町料理屋北海樓に酌婦奉公中中村と關係ありしも同人は家事の都合に因り三四箇月を經て自家に引取りしに中村はかめのを妻に呉れと再三再四相談せしも母は勿論かめのも中村が人物の惡しきより拒み居りしに脅迫的强談に出掛けるより、かめの等親子は新義州に避けしが中村は此の事を聞き態々新義州に到り母はつの迄懇切に扶養す可しと欺き本年三月京城に連れ來り間もなく南大門外料理店玉春亭に前借金百二十五圓にて賣飛し又々其の上四十圓を前借して費消しかめのを苦境に陷らしめ母はつのに對し扶養のふの字も爲さず何知らぬ顔して俺れの貰ひ受けた女房を奉公せしめしとて俺れの權利だ抔と暴言を吐くより母はつのは知人京城花園町四番戸茂木仁平に依頼せしより茂木より代人として中村相手に告訴せしより筆洞分遣所は中村を呼出し取調しに不心得なりしを悔悟し私も俠客なれば金作の上前借を文拂ひ身柄は實母に渡す可き旨答ふるに付一應說諭の上放還せりと

●怪美人の烟草屋

當地永樂町一丁目番戸が判らないから詳しく聲顧を申すと本町の方から這入つて約三丁程も行くと右側に炭屋さんがある其の隣りは二宮と云ふ雜貨店なるが其の前に何んとやら云ふ小さな烟草屋の主人と云ふは年齢は十九か、二十の美人にてれ母さんとも見へる老婆との二人暮し他の妾とも見ねず然らばとて唸る程金が在り相にも思はれぬ毎日〳〵入り代りての人出入り仔細ぞあらんと探つて見れば面白い材料もあるべけれど夫れ程の暇もないが烟草屋と云ふ表招牌で人を烟に捲いて置いて奧深され仕事があるのなれば何んだらうと思召さば直々探險せられたしと探訪子の報告

●酒を飲せて撲る

大和町二丁目伊藤組車夫清原新作(二三)は南部后宮洞人夫李錫先(二五)が六月一日午後七時半頃本町七丁目韓人酒屋にて酒を飲み居りしに一面識なき同人を無理に連れ出し八丁目韓人酒屋に到り共に飮酒し言語の行違より口論を起し李を毆打せしより筆洞分遣所に於て說諭放免

●亂暴醉漢に說諭

廣島縣平民當時中部茶洞十一統一戸用達業大谷軍一(二四)は六月一日午後八時半頃長谷川町飲食店鍵代に到り一杯飲んで泥醉し暴言を吐き初め亂暴にも障子を打ち破り酌婦大久保まさを毆打せしより寝床が一變して南部署の留置場に一夜寝さゝせられ二日の朝警官の御目玉頂戴をして引き退りたり

●氣の早い江戸兒

東京市京橋區二丁目六番戸平民當時本町二丁目奥田甚兵衛方內田淺藏(三七)は泥峴街に於て韓人姜必男(十七)を毆打せし爲め說諭

女振り

久保田金次郎氏夫人 久保田みね子

久保田金次郎君と云つては一寸見當が付くまいが本町一丁目のグロスレー青木堂の主人である、と云へばアー彼の壽座の曾我十郎かと直ぐに判明する、餘事を申して甚だ恐れ入るが金次郎君ナカ〳〵器用で十郎は確かに成功した、と同時に青木堂の名を廣告した事は夥しい、萬事に拔け目のない行り口後世でなく現世既に恐る可きである、みね子さんは明治二十一年一月の生れで本年二十三歳と、た年を聞いて驚くのは吾輩計りぢやない、氣性は烈しい方だが隱忍して發しない、シットリとした主婦振り、店員其の他の監督振り與に敬服に値する、三十九年金次郎氏に嫁かれて間もなく渡韓せられたのだ青木堂の本店とも云ふのは東京で有名な牛込神樂阪の青木堂で金次郎君は其の實弟である、金次郎君大きい聲では言へないがチョイ〳〵行るが夫れはみね子さんは知らんと思つてるらしいが大違ゐで何んでも知つて御座る、でも知つてるらしい顔もせぬ、內政はみね子さんの受け持ちで金次郎君は其の手腕に信賴して外交方面に其の辣腕を振ふ、其の日〳〵のれ總菜の世話かられ得意先への品物の選擇、店員の身の周りの世話まで一切擔當して居られる、夫人の堅實な所と金次郎君の派手な外交振りとが調和したる同店の前途は蓋し曙目に値する、れ子さんは未だれ一人もないが來年邊はれ芽出度があらふ

●取消

本日御發行の貴社新報第四一九號に御掲載相成候小生に關する記事は事實相違の廉不少候間御取消相成度及照會候也

明治四十三年六月二日 日出尋常高等小學校長 河合精一郎

京城新報御中

●新著家庭の改良

本書は遠藤學士が韓國鐵道の經理課長を勤め居られし際特に本會の爲めに熱舌を振て講演せられしものに麗艶の筆錄を假りて忌憚なく現代家庭の缺陷を痛論せられたるもの題して「家庭の改良」と云ふ横井學士は特に各章顔を追て適切の評註を試みられし必讀を要する珍書なり近々一千部を限り豫約出版すべしと云へば希望者は特價二十錢を添へ速かに韓國鐵道青年會宛申込まれよ

目と耳

▲壽座● 三日の藝題は前「男達野晒吾助の傳」中「合邦住家」切「明烏雪責」にして特に新內入りとし御禮の爲め特等六十錢、一、二等三十錢、三等十錢として大車輪にて演ずる由なり

亭主淸兵衛(甑若)娘れ園、浦里、正三郎)娘れ鯛、淺香姬、時三郎(內匠之助)子分與九郎、奴入平(三之助)からつや詑助、母親(九十郎)野晒吾助、俊德丸、竹三郎)六字澤右衞門、玉手御前れかや(甑太郎)大場仁三郎、父親合邦(大含)

▲京城座● 三日の代り藝題は「岡山孤兒院」全十場なりと云ふ

▲浪花館● 今三日の演物左の如し

七度狐(若三郎)命明中(若明)浮世根問(圓三)生貝(笑三)軸賞め(文齋)喜劇(座員總出)鐵砲屋(若遊三)大切所作事電氣應用

◎都々逸

井門本店內 政子

◎くる〳〵ばかりで姿は見せぬ ぬしは蛙のしようおちややら

代書屋たのんでいつもの帳へ 登記してほしふたりなか

▲雛子さんへ

醫者もくすりも利かない病氣 どこから傳染て來たのやら

たなじ內 蝶々

◎人にやれ世辭ぞ云ふ其の口で 妾にやじやけんな事ばかり

惚れた弱身か怒つちや見ても 逢へば矢ッ張り憎くかない

今日の運勢

●六月三日舊四月廿五日九紫● 佛滅 己亥破三りんぼ△一白● 妨碍障礙多き日新事改易の事見合すべし相談依賴請願効無し△二黑● 一生面を拓く日行商探檢調查改革整理に吉△三碧● 着手計畫目論見談合連盟に吉證劵印章の事注意△四綠● 慶事の日大抵吉家庭上の事煩累あり△五黃● 快心の日大抵吉自負誇大より損害來り易し△六白● 新事見合の事建築土木及共同連帶の事に吉△七赤● 整理改革模樣方針替轉住旅行轉業に吉盜害橫領の難あり△八白● 盛運日依囑請願談議建築及金屬の業務に吉△九紫● 非運たり諸事控へ目にすべし證劵印章火の元用意の事

本町五丁目三一館判斷

●天氣豫報

自二日午後六時 至三日午後六時

南西の風晴れ

一日(華氏) 最高温度 七四、三 最低温度 六〇、一

美術半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目 電話一千四百〇九番
ゑり德商店

仁丹主効
▲氣付▲毒消▲胸腹の痛
▲消化不良▲氣ふさぎ
▲惡酔宿酔▲むかつき
▲船車の暈▲吐き下し
▲頭痛目眩▲惡疫豫防

消化と毒けし

優秀なる口中香劑
懐中藥
THE JINTAN
仁丹
森下博藥房

健康と快活は
互に因となり果となる
之れ英の文豪「アヂソン」の格言……茲に於てか
一粒能く心神を快活にする
仁丹を缺さず御服用あれ

梅毒新劑
●快よく通じ
●百毒を下す
毒滅
DOKUMETSU

韓國代理店 京城新井藥房

マッサージ術
僂麻質斯。神經痛。
脊髓炎。腰筋骨
一切の術
小生儀内地に於て他年の間斯業に從事致し居り多數の患者を全治せし經驗有之候處今般左記に出張所を設け廣く患者の需に應ず
京城西小門通(三ツ角)
佐世保より出張 井手

提灯 新規張替 大勉强
並に硝子看板印物調進
京城本町二丁目裏通
藤井提灯店

各科診療
南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番
入院隨意

蜂印香竄葡萄酒
本品は日本の標準葡萄酒として内外大博覽會より二十四個の金銀賞牌を受領せり
東京 近藤利兵衛

韓語大成 値上廣告
一部一圓八十錢 郵送料十五錢
從來一部一圓五十錢の處今回紙數百余頁を加へ改正増補致候間前記の通り値上候也
京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
電話長四五番
振替貯金口座韓國二五六番

六月一日ヨリ
岐阜提灯賣出し
利益なし元價の
一張二十五錢

東京 足袋
本店東京
京城大和町一丁目(日の出橋際)
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
明治町勸商場内ニモ出張店アリ
正札付大安賣厘毛引なし安心して買へ升

金水舍製
ラムネ みかん水
例年の通り純良なる「ラムネ」みかん水製造販賣候間多少に不拘御愛飲を乞ふ
漢城製藥所
藥劑師 渡邊悦之輔
京城大和町二丁目

●三味線のはりかえはどこがよいであろうかはりがよくてねだんの安いは
米川三味線店に限る
京城本町五丁目郵便ポスト前
其他月琴 洋琴 尺八 笛類一式安價販賣仕候

ヴァイオリン速成教授
追て教授は親切ご叮寧に可仕候尺八指南も取次します

三一館
焦心望志多年爲斯道於渦微義與旨恍然似有得者難黯推廳斷吹吹茫洋辭意匪賜素面輕蔑也
京城本町五丁目
易斷觀相教授館主 土御門派陰陽師

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主醫學得業士 中島貞信

きゝめのある温泉湯
此の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りん病、よこね、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せんき、膓胃加答兒、頭傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を併用すれば尤も効能あり
貸席
京城本町一丁目郵便局前
鐵冷温泉
電話千四百十一番

京城相生町南門湯横(電話一二九四番)
自午前八時 至午後九時
●花柳病專門 附、痔疾一般
●入院隨意●
京城梅毒病院
院長 醫學得業士 蘆田耕平

韓官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
委託販賣
東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約
山梨鹽合資會社食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京京橋南鍋町一丁目(電話新橋三六九二)

明治廿年七月創立●京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九番
東京火災 運送 海上 保險株式會社
資本金一千萬圓● 事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

奥出洋服店
京城櫻井町五十七番ノ一(電話一二五五番)

京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島壽藏
(電話四百十三番)

大 㒵 萬
特約販賣自製
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
支那白菜漬 朝鮮菜葉漬 大賣出し
(電話二五一番)

辯護士 特許辯理士
京城明治町二丁目(佛國教會前)
岩田仙宗
電話三五四番

紙と印刷
諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本
諸官衙御用
播本商店
京城本町六丁目
電話百拾番